

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

平成31年 1月 8日 (火)

### 2 確認箇所

H4南タンクエリア

### 3 確認項目

- (1) H4南タンクエリアC1タンク配管下部における水溜まり事象の対応状況
- (2) 一時的な原子炉注水停止事象の対応状況

### 4 確認結果の概要

- (1) H4南タンクエリアC1タンク配管下部における水溜まり事象の対応状況

昨日(1月7日)、H4南タンクエリアのC1タンクの移送配管下部に水溜まりがあることを協力企業作業員が発見した事象について、東京電力から対応状況を聞き取りするとともに現場確認を行った。

- ・東京電力によると、水溜まりの水を分析した結果、汚染状況はバックグラウンドと同等であり、塩分濃度0%、pH測定値7.3~8.1であることから、水溜まりについては雨水によるものとのことであった。
- ・水溜まりの発生原因は、配管周りに巻かれている保温材に雨水が浸透し、浸透した水の重みで保温材が外れ、保温材に溜まっていた雨水が滴下して水溜まりが発生したとのことであった。
- ・現場確認時、雨水が浸透した保温材を新しい保温材に取り替える作業が行われていた。(写真1)



(写真1-1)

(写真1-2)

(2) 一時的な原子炉注水停止事象の対応状況

本日、2号機原子炉への注水源を3号機復水貯蔵タンク（以下、復水貯蔵タンクを「CST」という。）から2号機CSTへ変更する操作をしていた際、一時的に原子炉への注水が停止した事象について、東京電力から事象の概要等を聴取した。

- ・本日、2号機原子炉への注水源を3号機CSTから2号機CSTへ変更する操作をしていたが、2号機CST炉注水ポンプ（B系）の吸込圧力低下が確認された。このため、ポンプ切替のため、2号機CST炉注水ポンプ（A系）を起動したところ、午前11時49分頃、両系ともトリップ（圧力高警報発報）し、原子炉注水が停止したことから、運転上の制限から逸脱したと判断した。
- ・その後、ただちに（午前11時50分頃）2号機CST炉注水ポンプ（A系）の警報をリセットし、ポンプを再起動したところ、原子炉注水が再開された。
- ・必要な注水量が確保されていることを確認できたことから、午前11時54分、運転上の制限の逸脱からの復帰を判断した。
- ・なお、現場やプラントパラメータ及びモニタリングポストの指示値に異常がないことも確認できた。

5 プラント関連パラメータ等の確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。